

平成30年度行政事業レビューシート ( 総務省 )

<b>事業名</b>	総務省共通基盤支援設備整備・運用等事業			<b>担当部局庁</b>	大臣官房	<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始年度</b>	平成14年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	企画課サイバーセキュリティ・情報化推進室	企画課長 小笠原 陽一	
<b>会計区分</b>							
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	総務省組織令第3条			<b>関係する計画、通知等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務省電子政府推進計画(平成20年3月28日総務省行政情報化推進委員会決定)</li> <li>・総務省デジタル・ガバメント中長期計画(平成30年7月31日総務省行政情報化推進委員会決定)</li> <li>・電子決裁移行加速化方針(平成30年7月20日デジタル・ガバメント関係会議決定)</li> <li>・世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画(平成30年6月15日閣議決定)</li> <li>・デジタル・ガバメント実行計画(平成30年7月20日デジタル・ガバメント関係会議決定)</li> </ul>		
<b>主要政策・施策</b>				<b>主要経費</b>			
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	総務省内の職員認証、文書管理等を効率的に行うために、総務省共通基盤支援設備を整備する。						
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	府省共通の情報システム(一元的な文書管理システム及び職員認証サービス(GIMA))及び省内の情報システム(総務省LAN等)を省内基盤等と連携させる等の機能を提供する、総務省共通基盤支援システムを整備・運用する。						
<b>実施方法</b>							
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求
		補正予算	99	121	150	289	177
		前年度から繰越し	0	0	0	0	
		翌年度へ繰越し	0	0	0	0	
		予備費等	0	0	0	0	
		計	99	121	150	289	177
	執行額	97	121	150			
	執行率(%)	98%	100%	100%			
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	98%	100%	100%				
<b>平成30・31年度予算内訳</b> (単位:百万円)	<b>歳出予算目</b>	<b>30年度当初予算</b>	<b>31年度要求</b>	<b>主な増減理由</b>			
	借料及び損料	96	110	システム更改に伴う機器構築、移行費用等に要する経費の減			
	雑役務費	193	67				
	その他	0	0				
計	289	177					

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	SLA:99.9%	SLA(Service Level Agreement:サービスの品質達成水準)		成果実績	%	100	100	100	-
		目標値	%	99.9	99.9	99.9	-	-	
		達成度	%	100	100	100	-	-	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	総務省共通基盤支援システム運用業務 SLA報告書								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込	
	ユーザー数:約7,500人	活動実績	人	7,500	7,000	7,000	-	-	
		当初見込み	人	7,500	7,000	7,000	7,000	7,000	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込	
	連携データ件数:約5,500,000件	活動実績	件	-	-	5,500,000	-	-	
		当初見込み	件	-	-	-	5,500,000	5,500,000	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込		
	執行額 / (ユーザー数 × 365日)		単位当たり コスト 円/人・日	35.4	47.4	58.3	113.1		
		計算式	執行額/ ユーザー数 /365日	97百万円 /7500/365 日	121百万円 /7000/365 日	149百万円 /7000/365 日	289百万円 /7000/365日		
単位当たり コスト	算出根拠		単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込		
	執行額 / データ件数		単位当たり コスト 円/件	-	-	27.1	52.5		
		計算式	執行額/ データ件数	-	-	149百万円 /5,500,000	289百万円 /5,500,000		
政策評価、経済・ 財政再生アクション・ プログラムとの関係	政策	政策8 電子政府・電子自治体の推進							
		施策	電子政府・電子自治体の推進						
	測定指標	定量的指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
			実績値	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	府省共通の情報システム(一元的な文書管理システム及び職員認証サービス(GIMA))及び省内の情報システム(総務省LAN等)を省内基盤等と連携させる等の機能を提供することにより、これらのシステムへの職員情報登録や利用認証に係る事務が効率化され、電子政府の推進に寄与する。								
	改革項目	分野:	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	・府省共通の情報システム(一元的な文書管理システム及び職員認証サービス(GIMA))及び省内の情報システム(総務省LAN等)を省内基盤等と連携させ、効率的な業務の実現に当たって必要なものであると認識。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	・府省共通の情報システム(一元的な文書管理システム及び職員認証サービス(GIMA))及び省内の情報システム(総務省LAN等)を省内基盤等と連携させ、効率的な業務の実現に当たって必要なものであると認識。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	・府省共通の情報システム(一元的な文書管理システム及び職員認証サービス(GIMA))及び省内の情報システム(総務省LAN等)を省内基盤等と連携させ、効率的な業務の実現に当たって必要なものであると認識。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	・支出先の選定に当たっては、情報システムに関する専門的知見を有するCIO補佐官による調達仕様書の内容及び複数事業者から入手した見積金額の妥当性確認を行い、不必要な入札参加資格条件の見直し、適正な価格の設定及び十分な公告期間の確保等により、多くの事業者が参入機会を得られるよう措置してきたところ。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	・支出先の選定に当たっては、情報システムに関する専門的知見を有するCIO補佐官による調達仕様書の内容及び複数事業者から入手した見積金額の妥当性確認を行い、不必要な入札参加資格条件の見直し、適正な価格の設定及び十分な公告期間の確保等により、多くの事業者が参入機会を得られるよう措置してきたところ。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	・支出先の選定に当たっては、情報システムに関する専門的知見を有するCIO補佐官による調達仕様書の内容及び複数事業者から入手した見積金額の妥当性確認を行い、不必要な入札参加資格条件の見直し、適正な価格の設定及び十分な公告期間の確保等により、多くの事業者が参入機会を得られるよう措置してきたところ。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	・支出先の選定に当たっては、情報システムに関する専門的知見を有するCIO補佐官による調達仕様書の内容及び複数事業者から入手した見積金額の妥当性確認を行い、不必要な入札参加資格条件の見直し、適正な価格の設定及び十分な公告期間の確保等により、多くの事業者が参入機会を得られるよう措置してきたところ。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	・支出先の選定に当たっては、情報システムに関する専門的知見を有するCIO補佐官による調達仕様書の内容及び複数事業者から入手した見積金額の妥当性確認を行い、不必要な入札参加資格条件の見直し、適正な価格の設定及び十分な公告期間の確保等により、多くの事業者が参入機会を得られるよう措置してきたところ。	

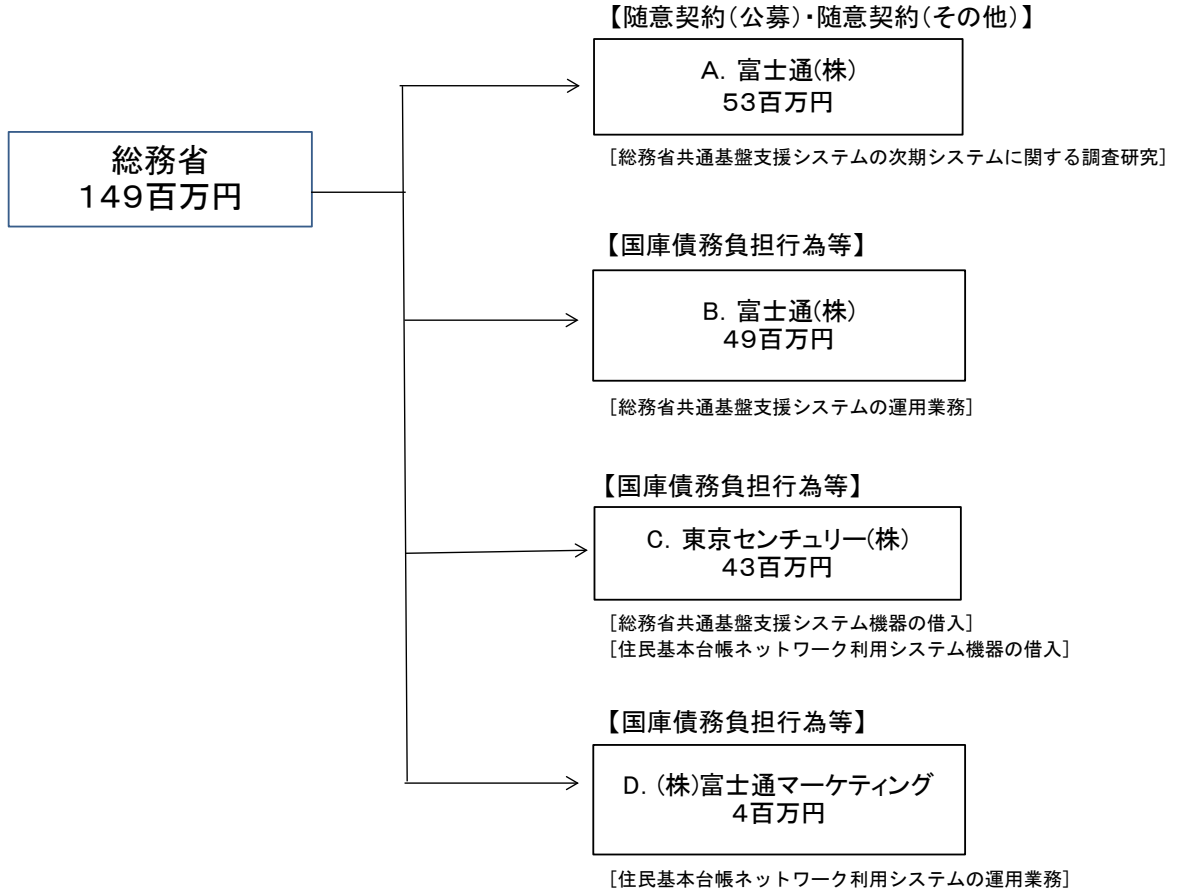
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SLA目標値99.9%は、継続して達成。</li> <li>・総務省電子政府推進計画(平成20年3月28日総務省行政情報化推進委員会決定)に基づいた電子決裁率70%以上の目標を堅持。</li> <li>・省内職員向けに、システム研修会を実施(平成29年度実績:延べ38人)。また、日々の文書管理業務等に係る問合せに対しても、当日中を原則に回答を実施(平成29年度実績:約3,500件)。</li> <li>・当年度成果物を元に次年度の研修会実施内容等を検討し、翌年度の研修会に反映。</li> </ul>	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SLA目標値99.9%は、継続して達成。</li> <li>・総務省電子政府推進計画(平成20年3月28日総務省行政情報化推進委員会決定)に基づいた電子決裁率70%以上の目標を堅持。</li> <li>・省内職員向けに、システム研修会を実施(平成29年度実績:延べ38人)。また、日々の文書管理業務等に係る問合せに対しても、当日中を原則に回答を実施(平成29年度実績:約3,500件)。</li> <li>・当年度成果物を元に次年度の研修会実施内容等を検討し、翌年度の研修会に反映。</li> </ul>	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SLA目標値99.9%は、継続して達成。</li> <li>・総務省電子政府推進計画(平成20年3月28日総務省行政情報化推進委員会決定)に基づいた電子決裁率70%以上の目標を堅持。</li> <li>・省内職員向けに、システム研修会を実施(平成29年度実績:延べ38人)。また、日々の文書管理業務等に係る問合せに対しても、当日中を原則に回答を実施(平成29年度実績:約3,500件)。</li> <li>・当年度成果物を元に次年度の研修会実施内容等を検討し、翌年度の研修会に反映。</li> </ul>	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SLA目標値99.9%は、継続して達成。</li> <li>・総務省電子政府推進計画(平成20年3月28日総務省行政情報化推進委員会決定)に基づいた電子決裁率70%以上の目標を堅持。</li> <li>・省内職員向けに、システム研修会を実施(平成29年度実績:延べ38人)。また、日々の文書管理業務等に係る問合せに対しても、当日中を原則に回答を実施(平成29年度実績:約3,500件)。</li> <li>・当年度成果物を元に次年度の研修会実施内容等を検討し、翌年度の研修会に反映。</li> </ul>	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			
	所管府省名	事業番号		事業名
点検・改善結果	点検結果	・システム操作研修会の実施やヘルプデスクの設置等により、総務省における電子決裁率は全府省を通じて高い実施率となっている。		
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府全体の電子行政推進の取組状況を踏まえつつ、サービスレベルを維持し事業内容の更なる見直し等一層の業務の効率化・合理化を推進する。</li> <li>・また、質の確保に留意しつつ業者の参入機会を広げることでより低廉な調達が実現できるように、今後も引き続き調達仕様の見直し、手続の透明性・公平性の確保などに努める。</li> </ul>		
<b>外部有識者の所見</b>				
外部有識者による点検対象外				
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>				
現状通り	事業の効率的な予算執行に努め、引き続き所要額を計上。			
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>				
現状通り	事業の効率的な予算執行に努め、引き続き所要額を計上。			
<b>備考</b>				

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	0028	平成23年度	0033	平成24年度	0030	平成25年度	0032
平成26年度	0031	平成27年度	0034	平成28年度	0030		
平成29年度	総務省 ( 0033 )						

※平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をやっているかについて補足する)  
(単位: 百万円)



**費目・用途**  
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A.富士通(株)			B.富士通(株)		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
雑役務費	総務省共通基盤支援システムにおける耐災害性に関する調査研究	10	雑役務費	総務省共通基盤支援システムの運用業務	49
雑役務費	総務省共通基盤支援システムの機能拡張等作業	40			
雑役務費	総務省共通基盤支援システム等に係る研修業務	3			
計		53	計		49
C.東京センチュリー(株)			D.(株)富士通マーケティング		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
借料及び損料	総務省共通基盤支援システム機器の借入	41	雑役務費	住民基本台帳ネットワーク利用システムの運用業務	4
借料及び損料	住民基本台帳ネットワーク利用システム機器の借入	2			
計		43	計		4

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

